

子ども学習支援事業：夏休みこどもひまわりの家

～平成 28 年度滋賀県子ども未来基金助成事業～

平成 28 年度の子ども学習支援事業「夏休みこどもひまわりの家」は、7 月 29 日（金）から 8 月 26 日（金）までに延べ 8 回（8 日間）開催。小学 1 年生から 6 年生まで 30 人（男女各 15 人）が申し込み、8 日間で延べ 167 人（1 日平均 21 人）が参加した。児童に接するボランティアの先生には高校生、大学生ら計 20 人が応募し、8 日間で延べ 46 人（1 日平均 5.7 人）が活動した。

毎回、学年や性別を超えて 4 つの班に分かれ、午前の学習では、各自持参した宿題やドリルに取り組んだり、読書に励んだり。ボランティア先生に質問する児童、同じ班の上級生に教えてもらう下級生もいた。ふざけ合って先生からお目玉を食らう場面もあったが、決まった勉強時間に机に向かう日々になった。

昼食時間は各班で決めた「班長」「机拭き係」「給食係（配膳係）」「後片付け係」がそれぞれの役割を担当した。中でも「後片付け係」は台所で食器洗いを体験し、洗剤の量や洗い方、拭き方などをボランティアの先生らから教わった。8 日間で誰もがどれかの係を担当し、集団行動での役割分担や仲間を思いやる大切さなどを学んだ。

午後の特別活動では、学校とは一味違う経験を積んだ。地元の高名な美術家ご夫妻の指導による「造形遊び」では、白紙のうちわに思い思いの絵を描き、マイうちわを製作。立命館大学や滋賀大学の学生サークルによる実験やゲーム体験、おじさんグループ「とんかち」による焼き板工作やコマづくり、センスコミュニケーション絵画で立体的なスイカづくりなどに、児童は目を輝かせながら取り組んだ。施設見学での作業体験、朗読グループによる朗読と手遊び、お茶博士による世界のお茶についての話や飲みくらべ、調理実習、台湾から来たお客さんとのふれあいにも児童の積極的な姿がみられた。

このほか、おやつタイム、お話しタイムに高校生や大学生のボランティア先生と色々な話をしたり、先生の子どもの頃の話を聞いたりしたのも楽しかったよう。毎回終了前に書いた日記では、その日の出来事をしっかり振り返って、感想や自分の学んだことを綴る子もいた。日記はその日の終了後、班を担当したボランティア先生たちが読んで、色々なコメントをつけて、児童と先生との交流に一役買った。

短い期間ではあったが、参加児童からは「楽しかった」「もっとやってほしい」、母親からは「ルーズになりがちな夏休みをきちんと過ごせた」「お弁当作りがなく、助かった」との声が聞こえ、「夏休みの居場所づくり、思い出づくり、友だちづくり、勉強の場」という事業目的に沿った成果が得られた。

以下に、活動の一コマを紹介する。



完成した「マイうちわ」をかざして記念撮影（7月29日）



調理実習では上級生が下級生の後ろから手を取って助ける場面も（8月23日）

★7月29日（金）相模川自治会館



「夏休み子どもひまわりの家」初日。午前中、参加児童は4班に分かれ、ボランティア学生さんの「先生」たちを囲んで学習した。夏休みの宿題や自由研究、読書感想文など、それぞれ先生のアドバイスを得ながら、熱心に取り組んだ。「静かな環境で勉強できて、良かったようです」「2学期になって、言わなくても自分から宿題をするようになりました」（保護者）と、学習習慣を身に着ける場になった。昼食後は地元の造形作家安土優さんご夫妻から「造形遊び」として「うちわ」の絵付けを教わり、世界に1本しかない「うちわ」を持って帰った。

★8月5日（金）大津市生涯学習センター美術工芸室



この日の特別活動は立命館大学ライフサイエンス研究会の学生さんたちの指導で「楽しいサイエンス実験」。空気のかで脱げなくなる手袋や、机の上を走る風船、よく飛ぶ紙飛行機づくりなどに挑戦しました。大学生のお兄さん、お姉さんたちから科学の知識やその不思議を教わりながら、友達と一緒に作ったり、競ったりして、みんな目を輝かせていました。この後は滋賀大学教職サークルGETSの学生さんたちの指導で色んなゲームを楽しむパフォーマンスもあり、みんなの笑顔が満開の一日だった。

★8月12日（金）相模川自治会館



この日の特別活動では、講師にお茶博士・坂田完三京都大学名誉教授を招き「お茶の不思議」と題して、世界のお茶の種類や味わい方、味の違いなどを教わった。同じ茶葉から緑茶と紅茶、ウーロン茶ができる仕組みを聞いたうえで試飲したり、先生しか持っていない貴重な年代物のお茶（中国産）を特別に味わったりして、「お茶」の世界の広さや深さを実感した。みんな、お家に帰ってちゃんと説明できたかな？